青山同窓会報

発行所
青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟高校内

印刷所　オリオン印刷㈱

ごあいさつ

会長　鍵冨清一郎

同窓会の皆さん、総会おめでとうございます。青山同窓会も年年盛大となり、実際の運営や計画に若い人達がどんどん参加してくれるようになり、まことに喜ばしいことです。卒業した母校に対する愛着は学校を出てから十五年もしないと沸いてこないなどといわれますが、最近は若い人達の熱意で色々と新しい企画も考えられているようです。年に数回、同窓があい集まって楽しい会合を続けてゆきたいものです。同窓諸兄が益々発展し、ご健康ですごされますようお祈りして、ごあいさつといたします。

知事に就任して

36回　君　健男

（新潟県知事）

青山同窓会の諸兄をはじめ皆様多数の方々の御支援を得まして、このたび新潟県知事に就任しまことに感謝の念で一杯であります。

昭和二十二年から二十五年余の長い間役人生活をして来た私ですが、先の参議院議員補欠選挙といい、このたびの知事選挙といい、多数の県民皆様から推薦されたという現実を体験し、今までにない厳粛な気持と責任の重大さを感じている次第であります。

大正から昭和にかけての私の新潟中学校時代は、多くの学生が将来の夢をもっていたと同じように私も商船学校の歌が好きで船乗りにあこがれたり。歴史家を希望したり若者の夢をもったものでしたが、結局医師になるために新潟医科大学に進むこととなりました。

その後の激動する日本の運命とともに、私の運命も医師から政治家と、そして知事という今日の姿に変わったわけでありますが、まことに感無量のものがあります。

同窓会の諸士にはすっかり疎遠いたし失礼しておりますが、各分野で御活躍され、私への激励と御協力と賜わっておりますことは、本当にありがたいことと感謝申し上げております。

御承知のように今日の社会情勢はきびしい困難な情勢であります。県政という大きな負託をうけた私といたしましては、この重責を全うするために渾身の努力をいたす所存でありますが、同窓会諸兄の御支援、御協力を切にお願い申し上げる次第であります。

終りに同窓会諸兄のますますの御健勝と、新潟高等学校の御発展を祈念いたします。

青陵祭

六月十六日、朝からの晴天のもと今年も盛大な祭典が、母校グランドでくりひろげられた。

建築足場で組み立てられた応援席では、一年～三年までの連合クラスが、思い思いの扮装で、リーダーとともに応援合戦をくりひろげ、又、フィールドせましと競技が行われた。写真の如く、雄壮な騎馬戦も行われ、青山健児の意気には目を見張るものがあった。

父兄席には、同窓の姿も多く見られ、後輩や我が子の健斗に拍手を送っていた。

四十八年度・県高校スポーツ最優秀賞受賞

昭和四十八年度の現役高校生のスポーツ各分野に於ける活躍は、大変めざましく、総合体育大会、全国大会、国体の戦績等をもとに県内より男、女各一校選ばれる、新潟県高等学校スポーツ年間最優秀賞に男子表彰校として我々の母校新潟高校が、えらばれ、四月十六日に栄えある表彰を受けました。とかく進学校と見られ、スポーツには縁遠いと思われがちな印象を改めるこの快挙を喜びたいものである。同窓諸兄も、在学中のクラブ活動を思い出し、折があったら母校を訪ね、後輩等の練習振りをのぞいてもらいたいものです。先輩の激励に、一層の活躍をするだろうし、又、スポーツで培ったファイトが、本番の入試等に於ても大きな戦果につながることと思われます。

昭和四十八年度の県インターハイに於ける主な成績は第一位はバドミントン、フェンシング、第二位はバスケットボール、サッカー庭球、第三位はラグビー等が、団体種目での活躍ぶりで、又陸上における二百、四百、第一位の宮村君や四百メートルリレーの優勝、女子百の高橋さんの第四位等があるインターハイ、北信越大会では、二百で二位、四百で一位の宮村君四百メートルリレーは二位、千六百メートルリレーでは四位となり総合でも堂々第二位となるなどめざましい戦いぶりであった。又、国体のバスケットボール高校男子オール新潟に二名選ばれ二位に入賞をとげた。

これら昨年のあとをうけて、今年の現役も仲々の好成績で、今年もインターハイに出場権を得たクラブは、サッカーの十八名、バスケットの十五名、陸上の三名、軟式庭球の三名、フェンシングの四名、卓球の二名と合計四十五名にものぼっている。これから行われるインターハイ、各種目での後輩達の活躍に期待したいものである

教職員の移動

昭和四十九年四月

今春の定期移動で左記の方々が転出、転入されました。

＝転出＝

中沢久雄　柏崎常盤高校教頭へ
渡辺雄平　新潟南高定時制主事へ
遠藤久雄　新潟向陽高校へ
南雲照三　新潟向陽高校へ
野崎誠哉　巻農業高校へ
阿部誠也　新潟江南高校へ
若林茂敬　県教育センターへ
杵渕絹江　下越教育事務所へ
鶴巻武利　県立図書館へ

（3面へつづく）

ますますさかん

30回　渡辺浩太郎（新潟市長）

大正十二年三月、新中第三〇回卒業式が挙行され、一〇二名が卒業したうちに私もいた。それから半世紀たった今年の三月十四日には、第八十二回生四三七名の若人が県高を巣立って行った。母校の発展に心から祝福をおくる。

思えば、大正から昭和にかけての新潟が、当時北鮮、満洲航路の中心基地として重責を果していた時から今日までの移り変りが、次次と脳裏に浮かび、"つぎに何を為すべきか"のヒントをつかむことがしばしばである。

世界経済も、政治外交も、"人口と資源"の問題を中心として展開されようとしている現代に、日本が「台風の眼」的な存在となり、新潟も新しい役割を果さねばならなくなることと思われるときに、昭和五十二年には上越新幹線の開通を期して、陸に、海に、空に、新潟市が担う責務はまことに大きいものがある。

私は満々たる闘魂をもって市政に取り組む決意である。

成せば成る。

青山健児よ、手を組まん。

人生、正に意気に在り

青山健児の健闘を祈る。

―我が青春時代―

35回　沢山　巌（新潟ゼミナール教務部長）

第二学期の始業式から帰って、寝そべりながら新聞を読んでいた時、突然部屋が大きく横揺れして身体が転がり、新聞から目が離れてしまった。新潟中学校一年生として「関東大震災」を新潟で感じた大正十二年九月一日のことである。

礎小学校の同級生の中で洋服を着用していたのは一人しかいなかった時代であるから、六月一日からの夏服（アサギ色霜降りの木綿服）着用までは、和服に袴、靴という珍妙な姿で、二本の赤線の入った学帽を誇らかにかぶり、意気揚々と学校町を通り、四十五分も歩いて通学した。

当時としては、県立の中等学校は、新潟中学、新潟商業、新潟高女、（中央高）しかなく、一年生定員二百五十人で県下全域から新潟中学へ受験に集まって来た時代であるから、現在の新高生が、ストレートで新大医学部に合格したような喜びと俺は新中生だぞ、という誇りを持ったのも当然であった。ツバの広い麦わらの夏用帽子もありエビ茶色の真中に白線の入った六センチ程の巾のリボンが巻かれてあり、モダンで街の人達の目を引いた。高校生の制服時代が過ぎ去ろうとし、帽子をほとんどかぶらないが、毎日バスで一緒になる後輩達が胸や襟に新高のバッチだけはきちんと着けている姿を僕は新中時代の気持に返って懐かしく眺めている。

赤い色のバスが、僅かに柾谷小路と仲通りを走っていたが、西新潟の者は乗車が許可されず、市外の者は寄宿舎に、殆んどの生徒が徒歩で通学していたから通学時には学校町の名にふさわしく、中、商、女、三校の生徒で狭い学校町の通りが埋まる程であった。上級生を追い越さないように歩いたが追い越したり追い越されたりする時は帽子を取って敬礼しなければならず、気付かずに敬礼しなかったり、女学生に殊更注目したりすると、後日上級生から呼び出しを覚悟しなければならなかった。学校や組主任の先生の目が光っていたせいか遅刻する者は殆どなく、八時にきちっと始められた。

五年生の下級生に対する締付けは強く、時には横暴と思われる行動もあったが、学校の手を離れた生徒の自治組織が自然と生じ、二五〇名の全校生徒に通ずる新中生という同胞意識と相互に通ずる親

愛感は深かったようである。五年生になったら俺も一～二年生等を鍛えてやるぞと秘かに期する者もあった。許可された活動写真以外は映画館への入場禁止。（映画館は大竹座等四館あった）先生が時々見廻りに行くから学校の目を盗んで映画を見ることは停学処分をかけた冒険であった。喫茶店らしいものは古町の青柳と都屋（現本間セトモノ店のところ）位のもので生徒には無縁の存在であった。現在は二代目となっているが関屋小学校近くにある関東大震災後東京から疎開して開店した通称関屋だんごの店にひそかに立ち寄る楽しみがあった。新商生もその頃裏手の田んぼ道を抜けてよくやって来た。現在の田町は一面の黒ずんだ田圃であり、学校のグランドに続いて松林があり、海辺へと砂丘が続き松波町、金衛町はすべて起伏のある松林やグミ、浜えんどう、浜ナスの砂丘で昼休みの遊び場所であったり、軍事教練の訓練場となった。坂口安吾が授業をサボって思索にふける恰好の場所は至る所にあった。二年一組の教室はグランドに面しており学校中で一番眺望のよい教室で昼休みに遊び過ぎてあわてて松林から走り出て来る生徒の姿もよくわかり、秋日和のよい日に枯れ草が燃えているのを消しに体操の先生が箒を持って走ってゆかれる姿にウアーと窓辺に集って授業を中断させたり、秋空にグランドを覆うようにして飛ぶ赤トンボを一人が五～六匹づつ捕えて、午後の一限が始まる時に一斉に教室に放っての先生歓迎作戦。先生が怒って帰られれば作戦成功。ひどく説教されても五十人同罪だから平気なもの。教室の座席は級長が廊下側の一番奥で、成績の悪い者程教卓に近い位置を占める様成績順に配置された。一学期毎に成績により座席が変り、体操場に組毎に並ぶ時も級長が先頭で落第生が最後尾にという順で他の学年の生徒の成績状況もこの並び方を見れば一目瞭然であった。

一番から五十番までの成績の者を一組として優秀組を作り、学期毎にその顔ぶれが変ったのであるが生徒は案外のんびり構えて、学校生活を楽しんでいたのも旧制高校や高専に進学希望する者が、現在のように全員大学へというような状況でなく、四年生の後半から受験勉強に取り組んでも充分間に合ったのだから、三年生まではまことにのんびりとした楽しい学校生活であった。それぞれに好きな本を何冊も読む余裕もあったし、友達との交遊の時間もあり、親しい友人を何人も得ることができた。

授業さえ真面目に聞いておれば数学でも満点をとることはそんなにむずかしいことでなかった。何時も四題出され、三題は教科書でやった問題という出題だったから。平均点六十点以下の者、一科目でも四十点以下の科目があると必ず落第させる厳しさがあったが生徒は悠然と十数名落第したがこの人達が社会人となって大活躍している人が多いのも不思議である。落第してもう一年選手をやれと先輩から云われ「ハイ」と六年間の新中生活を送った柔道部の豪傑大先輩も今は他界された。コセコセした勉強をしなくとも素質があるのだから、時至って努力すれば着目されるような社会的地位を得たり事業家として成功出来る集団「青陵健児」の一員である自信と誇りを持ち続けてもらいたいと今の新高生に望みたい。

個性豊かな他県出身の先生方が多数おられたので、根性よしの新潟っ子は授業以外にも啓発される面がたくさんあった。先生も詰襟服を着用され、服の下のチョッキから金や銀の時計の鎖が見える様に服のボタンをわざとはずしている先生が多かった。チョークは毎時間一本持って来られ、親指と人差し指二本で板書される国語のイモムシ（田村先生）教育学者とて著書を数冊出しておられる赤松先生が新卒の先生で一年生の英語で誰れも質問に答えないので授業を中止された事が何回もあった。一年の時からこんな悪さをやっていた。カバ（渋谷）先生は寄宿舎の舎監で今の校長住宅が舎監住宅であった。プールから化学実験室のあたりまで二階建の寄宿舎であった。長方形の顔に無きが如き細い目を教室の天井の節穴に向けて朗々と平家物語を暗誦しながら講義される得意そうな姿が目に浮ぶ。細い目が天井を向いているからと勝手なことをしていると早速発見されて、教室から追い出される破目になる恐い先生であった。修身も担当されたが英語の諺を題材に講義されることがあるがこの英文の諺が試験に必ず出るので、これさえ勉強しておれば落第点をとらずにすむので大変助かった。

スケート（小島）先生の数学の授業はきつかった。教科書を机上に出したきり、一切ノートすること厳禁。目を板書に集中し、一時間中緊張して講義に耳を傾けておらないとわからなくなるので大変つらかった。宿題を忘れれば中指を尖らした拳骨が頭に直降下した。この厳しい指導に堪えて行く中に数学が好きになり、ブル（歌川）先生の幾何の名講義に導かれて、

僕が数学教師になる道が開け母校の教師として愛すべき後輩達の数学指導に当ることの出来た楽しかった二十六年間を振り返ると小島、歌川先生方の特徴ある講義の姿や声が甦って来る。

運動クラブとしては、野球、庭球、篭球、陸上、ボート、柔道、剣道、水泳と少く、篭球は一年生の時に始めて新潟県に紹介され雪国に適したスポーツの為、後年新中、新商、新潟師範、新潟女学校がそれぞれの部門で全国制覇を同時に成し遂げる程に盛んになって、吉井兄弟、横山、高橋等世界的プレイヤーが育って行った。

春、秋の新中、新商の野球試合は新潟の早慶戦として、新潟の名物行事で現在の寄居中学グランドの場所が協会グランドと呼ばれ唯一の硬式野球場であった。野球戦が近づくと、毎日校庭で応援歌の練習が行われ、風に乗って「アシヤラ……アシヤラ」という新商の応援練習の歌声が聞えて来るとそら負けるなということで応援歌練習に熱が入ったものである。試合の当日ともなれば旧制新潟高校前新大理学部)のグランドで全校整揃いして試合場に乗り込み、熱戦を繰り返したが、在学中一度も新商に勝つことが出来なかった。新商には西山、内川等の名選手がおり全国大会に二度も出場する強さを持っていたので、早大のアンダースロー投手として六大学野球で名を残した源川投手の時も勝つことが出来なかった。母校の教師として戦後野球部長を命ぜられ校舎が焼失するまでの僕の野球部長時代には信越大会に毎年県代表として出場し、常に新商の優位に立って、新中五年間の溜飲を下げることが出来た。陸上競技も盛んで弥彦のグランドで県下中等学校陸上競技大会が挙行され、大会が終って帰校する選手を白山駅に全校生徒が出迎えに行き、暗くなった通りを小使いさんが竹竿に掲げた新潟中学校の提灯を先頭にグランドまで行列してゆき応援歌で選手の苦労をねぎらったり、勝っても負けても応援団の慨嘆演説があり叱咤激励の声がグランドの夜空にひびき、一～二年生の頃は速く終ることを願いながら身体を小さくしておった。華やかな選手達は女学生のファンもあったようである。

入学して間もなく昼休みに一年生は教室に待機させられ、各運動部の勧誘に上級生が廻って来た。髭面の親父のような恐さに見えて小さくなっていた。お前は何部に入ったと一人一人に聞いて廻る。僕のところの番になってお前は身体が大きいからボート部だと、一言のもとにボート部員にされてしまった。ボート部の猛者連中が最も体格も抜群で恐かった。明治末期の三校レース以来残った市内唯一のボート部で琵琶湖の全国大会に出場して意気の揚るボート部であった。選手になれそうもなかったし、他の事情もあってあまり真面目な部員ではなかったが、五年生の時学年対抗レースに出場して新潟日報のメタルを貰ったのがスポーツ関係の唯一の賞であった。

ボートレースは新中の年中行事で、秋の彼岸の中日に行われるのが例であった。白山高校のあたりが当時信濃川の中洲で、全校生艀で運ばれ一日中島流しになったようなもので、レースそのものもあまり面白いものでもないし、レースに出場しない者にとってはまことに意屈な一日であった。

新潟中学、新潟師範、物理学校(東京理科大)と教育を受けたが僕の人生の基盤を培ってくれた新潟中学が僕の唯一の母校である。昭和初期の不況時のため、気の進まぬ教育の道を選ぶこととなったが、自由の気風溢れる新潟高校で多くの良き先生方と交遊、優れた後輩の指導を回顧し、吾が六十年の人生が教育の道を歩き続けていることに満足と誇りをも感じている。

教職員の移動

昭和四十九年四月

(1面よりつづき)

＝転入＝

瀬戸正保　羽茂高校より
大湊忠男　新発田高校より
樋浦卓嘉　新発田中央高校より
小出勝彦　津川高校より
長谷部昇　村松高校より
矢田尚武　三条高校より
遠藤　実　三条高校より
中村豊次郎　豊栄高校より
長谷川英子　下越教育事務所より
山添　瑤　県立図書館より

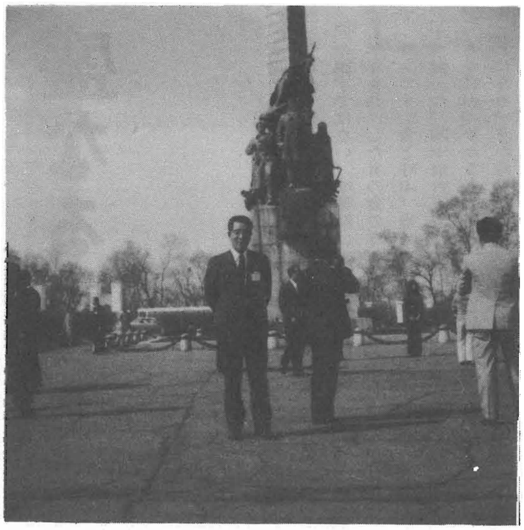
以上

ソ連手さぐり旅行記

61回　池田元嘉（北誠運搬機㈱）

(社)日本青年会議所北陸信越地区—新潟、長野、富山、石川、福井の会員が中心となり、三十四名の訪ソ視察団を編成、五月九日から十六日迄の十日間、ハバロフスク—レニングラード—モスクワを歴訪した。小生と同じ六一期生の石井壮一君も一緒であったが、日本語は勿論案外英語もあまり通用せず、即席ロシア語でお茶を濁す有様であった。

ハバロフスク市は人口五〇万人、極東における最大の都市で、政治、経済、教育、文化の中心として、外国との交流の窓口または、交通の要路となっている。ソ連社会主義の体制を忠実に実践している感じで、地味な真面目な都市という印象であった。ハバロフスク市から、ジェットで八時間のモスクワ市は人口七百万人、さすがに高層ビルが林立し、大都会の風貌を備えている。気温は、朝晩が二～三度、日中が十二～四度で矢張りヒンヤリした感じであった。旅行者が年々増えているせいかホテル建設が盛んであった。国民生活は一般に地味な感じで、服装も男は黒かグレーの背広かジャンバー。女は派手になったとは云え、赤緑青黄など一色のものが多く、柄物は少なかった。外貨獲得の大義名分が国策として浸透しているせいか、旅行者に対する待遇は良く、ホテルも一流どころを当ててくれている。ホテルのレストランは豪華で、バンドが必ず入っており、ヨーロッパ、東欧諸国の旅行者が多いせいか演奏される曲は、ジャズ、スイングなどポピュラーナンバーが多かった。クレムリンの宮殿内も見せてくれ、赤い広場の正面にあるソ連最大のグム百貨店に入ったが、日常生活品が中心で、みやげになる品物は少ない。みやげ物はドルショップ「ベリヨスカ」に高級品が多く、毛皮、琥珀が安く人気の的であった。モスクワでの公式訪問は「全ソ商業会議所」と「ソ日協会本部」の二ケ所であった。全ソ商業会議所は通産省の機能をもつ役所であるが、第一副会頭プリフォード氏はシベリア開発にかける日本への期待が大きいことを力説していた。ソ日協会は国民外交機関として大きな存在となっているが、渡辺浩太郎市長の日ソ交流で果した功績を、副会長ドブローフスキー氏は大きく評価し賛美していた。



レニングラードはモスクワから飛行機で一時間、日本の京都と云われる美しい都市で、人口五百万人、

バルト海に面した対岸はフィンランドである。帝政ロシア時代の宮殿などが、美術館として完全に保存されており、ピオトール大帝の宮殿であった—エルミタール美術館は駆足で見て歩いても三時間を要した。ホテルレニングラードの部屋から眺める「ネバ川」越しにみる風景の美しさは今でも目に焼付いて離れない。

さて、ソ連国民生活の一端をのぞいてみよう。ソ連は完全に男女同権で、夫婦共稼ぎが常識である。女性は、出産、育児という大役があるため、掃除、洗濯はまごまごすると炊事迄男性の仕事になっている。平均給料は男女共百十ルーブル(四万円)で、夫婦で八万円アパート家賃、電気、ガス、水道、湯の料金は、四人家族として一ケ月千二百円位で済む。ガソリン一立二十二円、牛肉一キロ七百四十円、パン一キログラム六十円、バター一キロ千三百円、新聞年間百十一円、牛乳一立百円という格安である。物価は二十年間変らずというさすがお国柄である。しかし、衣料、趣好品は高価で、ワイシャツ七千円、背広十万円、乗用車が百五十万円から三百五十万円である。驚いたことは、運転手の待遇が良く、月給が三百ルーブル(十一万千円)、医者が平均百三十ルーブル(四万八千円)外科医で二百ルーブル(七万四千円)である。その理由は運転手は多くの人命を預かるとのことであるが、一旗あげたい人はいかがですか？

以上

(注)換算　一ルーブル＝三百七十円で

ガキ大将

67回 前田邦光
（真人幼稚園教務主任）

公称「主任先生」、通称「おにいさんせんせい」、愛称「オニゴリラ」そして自称「ガキ大将」正式には「真人幼稚園教務主任、五才児担任教諭」である。十年前には今日自分がこうなろうとは、予想だにせず、せっせとデザインに励んでいた。これこそ男の仕事、一生を賭けるに足る仕事と勢込んで……。しかしいつからか、きまって同じような夢を見るようになった。高度三千米くらいを飛ぶ飛行機のドアから外へ飛び出した瞬間の夢を。飛び出さなければよかった!!と悔むのである。この身は暗い地上へ向って果てもなく落ちて行くのである。

どだいこの国で仕事としてのデザインの世界に人間性などという甘ったれた物を持ち込もうとしたのがそもそもの間違いの元だった。と悟った。デザインの先進国に於ては人間性のないデザインなど通用しない。この国で仕事を続けるには自分を偽らねばならぬ。偽り通して、ながらえるか、いや待てよ、この国のこの貧しさは何とかならないのだろうか……」

七年前、意を決して幼稚園を設立、以来文字通り汗まみれ泥まみれ、ひっかきずだらけのガキ大将。この仕事想像以上の激務、よくもまあ女共だけに任せて置いたものと思う。一に体力、二に根気三に大声、四に愛情、そしてやる気と工夫する力が必要とくれば、女子供に出来るわけがない。これこそガキ大将にうってつけの仕事と云う他ない。さてしかしガキ大将の一人や二人いくら奮闘したってこの国の心の貧しさが救える訳がない。わかってはいるが後には引けぬのがガキ大将のさだめ、死んでも弱音は吐けぬのがつらい所。さながらドンキホーテといったところか。唯一の救いはこのドンキホーテ、この六年間一度も夢を見たことがない。快眠、快食、快便、の健康優良児である。役得もある。三十過ぎて、手前の子供が三人いても、「おにいさん先生」と呼ばせている。この調子でゆけば六十過ぎても「おにいさん先生」でゆくか。

さて今の世の父親共よ、もっと自信をもって家族を指揮してはどうか、子供の育て方一つにしても母親のみに任せておいてはならぬ。これまで多くの子供の相手をし、その父親、母親とつき合ってみて思うことは、どうも年々子供達が女性化してゆくように思えてならぬ。そして父親不在の教育やしつけがその原因ではないかと思えてならぬ。「仕事が忙くて子供の相手までは出来ない」と云うのがおやじ共の言い訳の中で一番多いが、これこそ弱音の最たるもの、「だから子供のこと、家庭のことは一切おまえに任せるよ」に至っては最早男として、一家の主として、ギブアップに他ならない。

職域支部紹介

新潟市役所支部

県都新潟市の市政を司る新潟市役所は、逐年新人を迎えて、現在一六七名を数えるに至った。

名誉支部長の渡辺浩太郎市長（30回）をはじめ、若林忠蔵助役（35回）児玉賢雄助役（36回）高橋英雄収入役（41回）小野塚忠義教育長（34回）につづいて、会員は各部局、課の職域で、各自の職分をファイトをもって遂行している。

過日五月一日午後五時半から支部総会をイチムラデパート（東堀六）で開催した。広汎な職域にわかれているため、職務の都合でなかなか出足が揃わないのであるが、九十人余で総会が開催出来たことは近来にないことであった。

新役員は、支部長に広沢武（44回）副支部長に野島義雄（45回）田辺博茂（46回）を満場一致で選出。ついで新支部長から、会計監査に鶴巻鉄三（46回）金巻昇（50回）両氏と幹事十三名を委嘱し、若々しいスタッフが決まった。

続いて、渡辺名誉支部長から、青山健児の意気高く、一層親睦を密にして、市政に努力されたい。と激励の言葉があり、乾杯、毎回出席の鍵富会長と、新樋口幹事長のお二人から、本部の現況説明と、東京支部の活動状況の紹介があり、参会者一同、当支部も、もっと積極的に懇親をはかろうということとなった。

〝枝豆とビールで暑気払い〟とか、〝中秋の名月を賞(め)でながら〟など、臨時総会待望論も出て交歓はつきず、幹事会に、その企画を一任し、校歌、応援歌の大合唱とつづき夜の更けることを忘れていた。

同窓の誼(よしみ)は、日常の業務のなかでも遺憾なく発揮され〝明るい、住みよい新潟〟づくりの仕事に一同精進をつづけていることを申し添えます。

盛なるかな

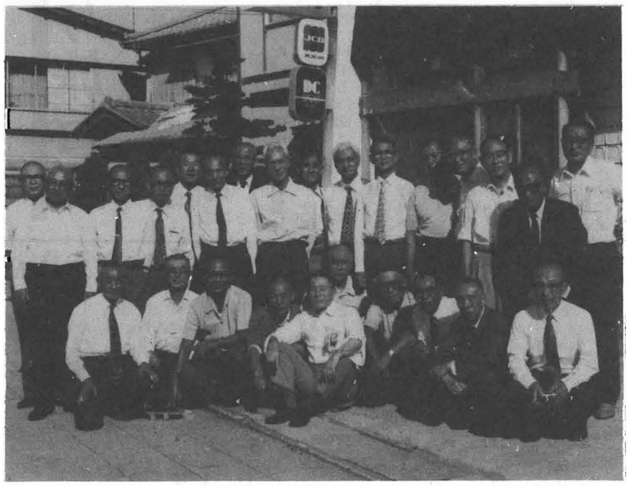
三十二回

大正十四年卒、回でいえば三十二回となるが、我々は三二会という。回の誤字ではない。卒業期は別でも学年を共にした者の会の意味で「サンニー」会と呼ぶ。当時は三十点台一つ、四十点台三つ、のどっちかに引っかかると落第ということになる。だから平均点七十五点でも落ちた仁がある、むしろ傑作にそういう人が多かった（例 坂口安吾氏）又ガッツた人物は卒業せずに旧制高校へ四年で進学した数氏もいる。だから我々は回を問題にしない。

話が変るが東京連中（常山四郎氏代表）は毎月第一水曜に銀座のビヤーホルで集まっている「一水会」という。これらの連絡をその昔のマラソン王澤山（堤）八十松氏が実によくとって下さる。それが刺激で昨年は近隣相呼び、八月九日（澤山氏歓迎）九月十六日（東京勢歓迎—写真）十一月十三日（高橋—板垣—健三郎氏歓迎）、そして今年になって奮起一番三月二十三日鍋茶屋、更に趣向を変えて六月九日渋川周蔵氏邸でと、めまぐるしい程の会合を行った。いつも二十人以上集まり、会毎に新人出現で楽しい事限りない。殊に鍋茶屋会では新潟代表小林力三氏の斡旋で名取り連十数名の美妓の美技に酔い、又渋川邸では氏の研究労作のばらの香に酔う、全く若がえる思いであった。東京連は胡瓜がうまいといって多量にお土産を持って行った。齢いも既に六十よりも七十に近くなった今日、機会の度毎に集ろうということで、秋には赤塚藤内氏邸で「柿紅葉を賞でる会」を計画中である。（同氏は余り宣伝するなといっている）

なお来年は卒業五十周年にあたるので今名簿を整理中であるが、既に幽冥、界を異にした旧友が半数もある。感慨無量である。又期友曽我英彦画伯の彩管を煩わし、懐しの旧校舎の油絵を母校に寄贈すべく、目下幹事で案内を立案中である。やがて期友諸兄に連絡申し上げると思うが、今からご賛同を希う次第です。

（吉川直志幹事代理）



後列右より
樋口・笠原・味方・伊藤
五十嵐・長谷川・本間・磯部・
白石・田中・渋川・平石・山田
渡辺・小林・竹石
前列右より
中原・山崎・木村・解良・藤田
常山・丸山・佐々木・大塚・沢山

青山水友会 東京に集う

一月二五日、小田急デパート別館ハルクの『豪華』に於て懇親会を催した。在京者の外に前橋から山添三郎さん、新潟から熊田貞穂さんが馳参じ下された。年令差はあれど、夫々がもつ水への思い出には変りなく誰かが語れば皆が反応するといった和気藹々の集いであった。

以下夫々の語録を左記へ

30回 山添直……青山貞三（17回）北見五郎（21回）家坂、堺、高松、赤井等の諸先輩に鍛えられたが、水泳部の伝統は、家族的親密さであって、先輩、後輩の絆は固いのが特長であった。卒業後、斯界発展のため、アメリカンクロール、オーストラリアンクロール、トラビアンクロール等の原書を翻訳して毎日新聞で紹介した。

君達水泳部歌知っているかネ。

『はても荒波たち騒ぐ
日本海のただ中に
群がる鯨鯢叱咤する
青山健児の緈ぞ吾れ。』

35回 小林商司（旧姓植村）……同期に背泳の福原とフリーの吉岡がいて何れも強かった。私はブレストで、そこにいる宇佐美の後塵を拝した方であった。うどん、そばが一ぱい五銭、青柳だんごの二階の会費が五〇銭の時代だった。昔は水に潜って許りいたが、実社会では山に潜るトンネル屋になった、苦労の多い商売だが、日本海の荒海で鍛えた頑張りのお蔭げだと思っている。

青山水友会の集いがあるとは思わなかった。お蔭げで熊田さんとは五〇年振り、宇佐美さんとは四七年振りに逢えた。今後命の続く限り出席したい。

36回 宇佐美博……水泳部の浜小屋で、山添三郎さん手作りの麻雀牌で解説書と首っ引きでやったことを憶えている。作ったご本人がそこにいらっしゃるのだから、間違いない。日本でも恐らく草分けか、昭和二～三年頃のことだったと思う。

39回 杉崎普……プール建設の基金を作るため、映画館の前売券をよく売った。兄、清　弟、喬（何れも水泳部）は戦死した。

40回 河内恭三……新潟ホテル前の村山プールでの三校レース（新中、新商、師範）で女学生の応援をうけて悠々トップ。ベストは百背泳一分十九秒〇、二百で二分四九秒二、

43回 梅田悌次……三年生のとき長岡の悠久山プールの県大会で私一人を残して全員が予選に落ち翌日の決勝では孤軍奮闘だった。

43回 今井亮……「栄光燦たり」でも紹介したが五年生のとき秋田で行われた東部中等学校水上競技大会の優勝が何よりの思い出

44回 水野清之助……戦時中、北京には水泳部の先輩が各方面に活躍されており、北京大学に山添三郎さん、興亜院に鎗居順さん、華北交通に斎藤久さん、新民会に渡辺昇一さん等がおられ、私だけが学生だったので随分とお世話になった。

49回 佐藤博……最近久振りに国に帰ったら放送局がなくなって、展望台があり、上って眺めてみたが、すっかり変ってしまって……嗚呼……

58回 北井一郎……戦後の食糧難の時代よくプールに通った。…当時女学校の水泳部も盛んで、よくプールを借りに来ており、一緒に泳ぐのが楽しみだった。国体に選抜され、二百米平泳二分五十三秒で泳いだが落ちた。

63回 斉藤正果……親の夢を子に託して目下伜をスイミング教育に通わせ、英才教育を実施中。

（水野　記）

渡部師を囲んで 38回生

38回も会を重ねて五十一回、今度、特別に母校の渡部脩治師をお招きして昔の事など色々話して戴こうと、去る二月二十三日田中ホテルで例会を催し、余寒の一夜を心ゆく迄愉快に過した。

おききしたら師は八十才になられた由ですが、昔乍らの童顔に色艶も良く青年の様ですが、唯おつむの毛が少し薄くなられた。

何時も乍らの和服で、羽織、袴の姿で見えられた渡部師は「ハア誰さんですか」「昔と変わりませんね」などと終始温容な眼差しで語られる姿には心温まる思いだった。

「私は健康の為に一日に少くとも三回入浴しています」と語られる渡部師。

「植木を相手に毎日を楽しんでいますよ。植木は枝を切っても怒る事なく私の手入れに快よく応えて成長してくれますからね」とも云われる。

「この喜びは、又たとえようもありませんよ。心に安心感を与え、生きる物を育てる快よい満足感を味わいます」

あくせくと夫々の生活を過している強者達、いや餓鬼共も当夜だけは全く純真な青山健児の昔に返えり、師の人生の話が、ジーンと心身に染みた良い一夜だった。

一同は師の御健康を心からお祈りして乾杯〝霞棚引く青山……〟を精一杯の声張りあげて唱和して家路についたのは早春の夜も九時近くであった。

玲瓏会

毎年五月十八日に総会を催すことになっている玲瓏会は、今年は五月十八日が丁度土曜日にあたった為もあり、かねて希望のあった東京支部との合同総会をやろうじゃないかということになり、新緑あふるるばかりの湯沢グランドホテルにて、渡辺秀英先生と今年三月、新津工業高校長を最後に退職されました宮部与一先生のお二人をお招きして行われました。

東京よりバレーの北井一郎君、佐藤工業弁護士の関根俊太郎君、モービル石油の勤務の佐藤悟君、東映の本田勝君、長蕗谷秀雄君、野よりわざわざ車でかけつけた信越電気通信部の佐藤俊彦君、それに新潟より九人と数の上では少し淋しい総会ではあったが、初めての東京、新潟合同総会であり、卒業以来初対面という顔ぶれもあって、実に賑やかな楽しい総会で真夜中十二時頃まで戦時中新潟埠頭で船から大豆の袋をかついで倉庫まで運んだことや、黒埼に飛行場をつくるために地ならし作業につれていかれたりしたことや、又宮部先生の渾名の由来を先生自身より解説していただいたり話のつきるところがなかった。翌朝も朝風呂に入ったあと、ビールをのみながら、昨夜の話のつづきと別れを惜しみながら、又の会う日を楽しみに散会した。

（青柳広士　記）

青山五十六期の桜

一堂に会す

「玲瓏の天仰ぐとき胸さっそうの意気に満ち」懐しい校歌に誘われつつ我々五六期の強者が四十数名久し振りに新潟市に相集い、昔日の青春の思い出に顧いをはしらせていた。折しもご多忙の中を恩師、谷久弥・池政栄・沢山巌・武田慎三郎・阿部正の諸先生方のご臨席をいただき、ここに五六期の同期会を去る五月十八日盛大に催おした。思えば終戦後混乱期の昭和二十三年三月この学窓を巣立って早くも二十六年の歳月は過ぎ、中年層として社会の第一戦に活躍している青山健児！久し振りに会した姿はひたいにしわ、ゴマ塩の頭髪……等社会での苦労の年輪を思わせる。そろそろ孫の姿を見る年代に入ったのかなあという実感が湧いて来た。しかしながらここに集いし若人は、若かりし三十年前のタイムトンネルに思いをはしらせ、新中時代の思い出話に盃をくみかわしたのである。戦争最中、大東亜共栄圏のためにと八紘一宇の精神をもたされて学業を捨て石井精密へ勤労動員に参加したことや、炎天下灼熱の砂浜で正座させられた数度の「ガイタン」等今なお懐しい思い出となり語りつがれていた。そして終戦、世相の急変と共に混乱期に育った我々にとって、何といっても慰めとなり、はげましとなったのはこの青山精神ではなかろうか。団結力！組合意識ではないけれども、誰かが話を持ちかければ「よしやろう」という協力心が湧水の如く湧き出て、いつとはなしにここに相集うようになったのである。以来同期会を開くこと九回に及び、今回は教員グループが幹事団を組織してその当番に当った。有難いことに万障を繰り合わせてご出席下さった恩師の先生方や、はるばる東京、大阪方面からかけつけてくれた諸氏のことが一番脳裏に感謝の気持ちで焦げついた。そして身分はともあれ同期生として協力を惜しまない諸氏、万難を排して参加して下さった同期の桜の諸君にこの誌を借りて深甚の謝意を表したい。

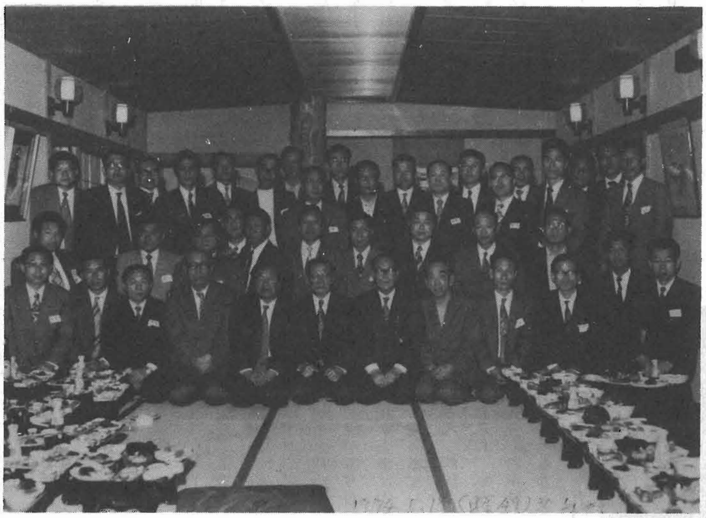
この協調の精神こそ、それとはなく育てはぐくまれて来た青山精神ではなかろうか。宴会はなお続き、思いは青山時代へと尽きることはなく又来年語り明そうと……三々五々ネオン輝く新潟の夜の街へと消えていった。

大谷記

三林輝夫氏 65回

県民会館で初リサイタル

芸大の声楽科を卒業後再び大学院オペラ科に学び、現在母校芸大その他で声楽の指導者として、又フランス歌曲を研究して、フランスにもコンクールに特賞を得て、フランスに行き、東京ではすでに「フランス歌曲の夕べ」などたびたびリサイタルを開催、大いに活躍しているが、この度、故郷の新潟で、初めてのリサイタルが開催されました。県民会館大ホールを埋めた地元の人々は素晴らしい歌の数々にすっかり魅了させられ、楽しい時を過しました。今後一層の発展を期待したいものです。



事務局より

お願い——

口を開けば物価高、誠に恐縮に存じますが、物価の波は同窓会のやりくりにも及びまして、この際会員各位の年会費を値上げしなければならない状態となり、六月六日の各期代表幹事役員会で年会費一口一、〇〇〇円と決定させていただきました。

一口、又は二口納入下さるようよろしくお願い申し上げます。

振替送金の場合は改めてこちらから領収証は発送せず、郵便局の領収をもって本領収証にかえさせていただきます。

会費納入の方には年二回発行の会報をお送り申し上げております。

事務局では会報編集に苦労しておりますので、会員の皆様、どんな記事でもよろしいですから、思い出した時にご寄稿下さる様お待ち申しております。

今年も又あじさいの花の咲く頃に総会が近づいて参りました。

病の床にあって死ぬまで同窓会を愛して下さった亡き斉藤幹事長さんの希いをいつまでも大切に。

今年の総会も盛会を極めますよう祈ります。

事務局　岩田

訂正のおわび

八十周年寄附

昨年皆様のお手許へお送り致しました寄附者名簿の中、59回生分について大島洋一、七、五〇〇円は東京青山同窓会59回生一同の誤りでしたのでここに訂正してお詫び旁々ご報告申し上げます。

編集後記

時節柄、節約ムードで六ページの紙面づくり、クラス会報告等が主となりましたが、沢山氏の我が青春時代、いかがでしょうか。それぞれの時代の青春を筆にのせて送って下さい。職域支部紹介、いろいろ活発なニュースをお知らせ下さい。若い同窓の近況等も随時のせてゆきたいものです。(M)

昭和48年度青山同窓会費納入者追加分 (1月～3月納入のもの)

期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名
16 倉島正平 25 星野晃広 26 安倍邦男 28 松浦茂路 松田安懐 29 山崎徳左 30 遠藤種雄 31 斉藤一男 二木松雄 32 吉川直志 星野忠五郎 33 川上英三 藤島寛	34 小野塚忠義 神田坤六 佐久間信吉 田巻俊太郎 吉田英一 35 岡　四四亥 西村六平 熊倉雄三 保倉邦彦 丸山求蔵 36 関　昇 倉田亨 植木市松 西　藤司郎 相田和夫 村山浩 37 井村正樹 浅井宏	馬場幸一郎 黒川武三郎 38 後藤林八 成田繁二 等々力英男 山田昇司 皆川忠郷 阿部尚道 40 本間章 高橋鋼吉 41 高橋英雄 野末正二 番場三作 渡辺宏 今川正男 42 村井惟徳 鋤柄実 薄田開元	佐藤政治 斉藤万亀男 鳥羽正隆 43 黒岩広雄 早船春洋 栗山房之助 44 小田正衛 鈴木繁男 北沢裕 46 小林兼吉 本田富雄 中田紳一郎 小林信夫 茅原一也 大津任 47 古俣辰郎 中川保	47 内山吉郎 伊藤元司 木村和郎 朝日翠 48 中村英治 49 田中久盛 清水剛 逢坂邦雄 50 岡田務 加藤昌 寺田秀夫 斉藤宗三 丸山勉 山岸芳郎 51 嶋岡強 早川善寿朗	大野富夫 花沢博 52 早川蓁之助 吉田和夫 星野昌人 吉田赳 小沢興栄 村山昇 山崎利兵衛 成田昭一 53 大滝侃市 篠原長一 久代和夫 笹川徳義 55 早福卓 渋木登 松井稔英 石本林三	55 等々力和男 浅妻昭三 56 小林隆太郎 市川久純 高原哲雄 中山昭一 58 諸橋新 大石一郎 松井徹郎 石塚昭五 59 栗林洋 60 成田禎作 渡辺祐吉 山崎勝朗 浜田達三	61 木村磐 佐藤真武 本間淑人 太田二郎 渡辺和義 62 高橋利保 63 渡辺昌夫 佐藤正明 64 風間士郎 塚本暉麿 65 小林保夫 三林奈子 村山庸二 66 山崎稔	67 石田瑞穂 68 上村晃一 浜田圧司 田中光弥 宮尾益征 69 村山郁夫 70 杉本正義 71 丸山鉄彦 成田常巳 74 高橋秀憲 78 金田政樹 谷沢礼子